



大淀の眺め 1973 パスコンテ 270×220 村山市大淀



大淀の春 1982 クレパス 270×220 村山市大淀

企画展示室 真下慶治描く 全流域の最上川 素描展

平成26年 10月16日(木) — 11月4日(火)



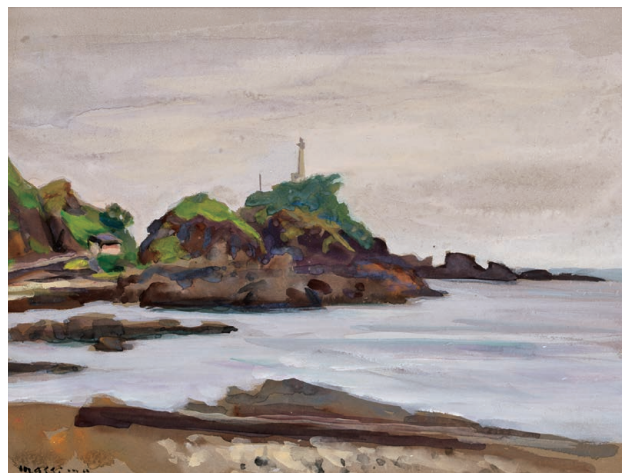
最上峡 1983 水彩 400×310 戸沢村小外川



最上川と鳥海山 1980 鉛筆・淡彩 260×215 酒田市新堀



最上川河口・春 1986 水彩 355×260 酒田市宮浦



加茂灯台 1940 水彩 320×240 鶴岡市加茂



真下慶治記念美術館
massimo keiji memorial museum of art

〒995-0054 山形県村山市大字大淀1084-1

TEL 0237-52-3195 FAX 0237-55-2152 E-mail massimo@city.murayama.lg.jp HP. 真下慶治公式ホームページ検索

酒田 松山文化伝承館のご案内



津谷の診療所兼母屋の玄関前にて左より父元雄、博、寿雄、母キン、三佐男、慶治



山形のアトリエ 2014年3月5日 撮影

企画展示 最上川を描き続けた真下慶治とその家族 11月16日(日)まで

真下慶治生誕 100 年によせて

生誕 100 年にあたり、真下慶治の「家族」を紹介しようと思立ちました。残された写真の中から本当に僅かではありますが、慶治の父・母・兄弟・妻・子供達の写真を中心に選びました。絵画であればファンの方々には数多くご覧いただいておりますが、写真のほうを見ていただく機会は少なかつたと思います。

慶治の父・元雄は医師であり、慶治のいちばん良き理解者でした。国民健康保険制度の制定に尽力された立派な方で、戸沢村村制 40 周年の記念展開催の折には、数多くの村民の方々から「真下医師から助けられた」との感謝のお言葉をかけていただいたこと、忘れられません。「紀元 2600 年 (昭和 15 年) 奉祝典」では (それは日独伊の三国同盟があり戦争が色濃くなる時代でした)、慶治の絵画がイタリア政府に買上げられるという嬉しいニュースがあり、両親はそのことを非常に喜びました。父をはじめとする家族の理解のもとで真下慶治は画業に専念した。津谷の岩花に作ったアトリエから始まり、山形に居点を移し、大淀のアトリエ・テント、隼のアトリエ、さらに松山のアトリエといった様々な角度・時代で最上川を描き続けました。現場主義に徹し、生涯最後のときまで雪の上で風景を見つけた人でした。

大正ロマンから激動の昭和を生きた人ですが、はにかみ屋でのんびりで穏やかな人でした。この小冊子と展覧会が生誕 100 年の記念になればと思います。酒田松山文化伝承館および、村山市 真下慶治記念美術館で開催する展覧会には、ぜひ、ひとりでも多くの皆様にご来場いただき、画家真下慶治の生涯に触れていただきたいと願っております。

館長 真下 清美

真下慶治のアトリエの数々



津谷仮アトリエ 1935



戸沢村岩花のアトリエ 1937



雪の日使用パラソル



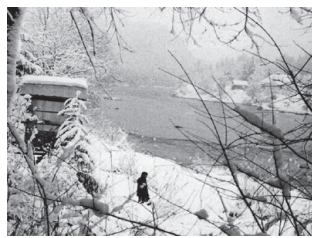
山形のアトリエ 1956



大淀アトリエ 1971



【大淀の眺め 80 号】を 1971 制作した仮アトリエで



隼仮アトリエ I 1972



隼仮アトリエ II 1973



窓付きテントで制作 1979



松山アトリエ 1988



写生用愛用ジープ

真下慶治記念美術館 開催

常設展示室 企画展示室

母なる河 最上川 III

11月7日(金)ー1月20日(火)

開館 10 周年記念式典

11月8日(土)AM10:00より

アートクラブ

現地研修

10月29日(水)AM8:30 集合

松山文化伝承館「最上川を描き続けた真下慶治とその家族」と
加茂水族館見学コース

閉講式

11月30日(日)PM1:30

「おもてなしの心」 講師 大沼 智也

致道博物会学芸員